

2015年度 声楽 特別講義「歌唱表現特別研究」
第21回 林 美智子 特任准教授

1. 日 時 : 2015年12月18日(金)18時45分～20時15分
2. 場 所 : C号館 401教室
3. 対象学生【必修】 : 大学院オペラ研究室・歌曲研究室・声楽研究室 1・2年生
大学専攻科声楽専攻生
大学「オペラ特別研究BⅡ」・「歌曲特別研究BⅡ」受講生
4. 講 師 紹 介 : 林 美智子 特任准教授

他聴講学内のみ可

裏面参照

5. 講 義 概 要 :

村 岡 瞳(大4)

Gounod 作曲 「Faust」より

" Ah! Je ris de me voir "

武 久 ひとみ(大4)

Bellini 作曲 「I Capuleti e i Montecchi」より

" Oh, quante volte, oh! quante "

森 千 夏(院1)

Bellini 作曲 「I Capuleti e i Montecchi」より

" Oh, quante volte, oh! quante "

林 美智子

埼玉県出身。東京音楽大学卒業。桐朋学園大学研究科、二期会オペラスタジオ、新国立劇場オペラ研修所第1期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンへ留学。

アテネで開催された「国際ミロプーロス 声楽コンクール2003」で最高位入賞、アテネ五輪の文化事業の一環として05年10月アテネのヘロド・アティクス野外劇場で上演されたオペラ『エウメニデス』(世界初演/演奏会形式)に復讐の女神コルフィ役で出演。第5回ホテルオークラ音楽賞受賞。

2002年、新国立劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼルでデビュー。二期会創立50周年記念『フィガロの結婚』(宮本亜門演出)ケルビーノで好評を博し、続く2003年二期会・ケルン市立歌劇場共同制作『ばらの騎士』オクタヴィアンでは名演出家G. クレーマーより絶賛された。同年日生劇場ベルク『ルル』(3幕版/日本初演)でも存在感を示し、以降も二期会『ドン・ジョヴァンニ』(宮本亜門演出)ツェルリーナ、佐渡裕指揮『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル等で活躍。2006年には東京二期会『皇帝ティトの慈悲』にセスト役で出演、ヨーロッパの歌劇場から依頼が殺到する名演出家ペーター・コンヴィチュニーの意図を見事に具現化した演唱で公演を成功に導いた。2007年には新国立劇場小劇場『フラ・ディアヴォロ』、アンエミリオ・サージ演出『運命の力』、アンドレアス・ホモキ演出『フィガロの結婚』ケルビーノでの活躍、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』では舞台を牽引するロメオ役が話題となった。2008年びわ湖ホール/神奈川県民ホール『ばらの騎士』オクタヴィアン、新国立劇場『椿姫』フローラ等でも聴衆を魅了。09年6、7月には兵庫県立芸術文化センター、東京二期会、愛知県立文化振興事業団の共同制作による佐渡裕指揮『カルメン』タイトル・ロールで出演し新たなカルメン像を創り絶賛を浴び、その模様はNHKでも放映された。2012年11月、日生劇場開場50周年・読売日本交響楽団50周年・二期会創立60周年『メディア』(アルベルト・ライマン台本・作曲 日本初演)クレオサでも好評を博し、2013年2月、東京二期会オペラ劇場『こうもり』(新制作)オルロフスキーに出演。2013年7月には兵庫県立芸術文化センター、佐渡裕指揮『セヴィリアの理髪師』(新制作)ロジーナに出演。2013年9月あいちトリエンナーレ2013『蝶々夫人』(新制作)スズキに出演。

主要オーケストラとも多数共演し、2005年秋山和慶指揮/九響「アルト・ラブソディ」、2006年都響/マーラー「交響曲第4番」(広上淳一指揮)、ドイツ・カンマーフィル「第九」(P. ヤルヴィ指揮)、名フィル/マーラー「復活」(M. アツモン指揮)、2007年東響/ヴェルディ「レクイエム」、東フィル「第九」(チョン・ミョンフン指揮)、東フィル/ベルク「初期の7つの歌」(若杉弘指揮)などその活躍ぶりは目覚ましい。2006年林美智子自身を想定して書かれた林望作詞・野平一郎作曲による「演劇的組歌曲『悲歌集』」も好評で翌年の再演も大成功を収め、2007年チョン・ミョンフン指揮『イドメネオ』イダマンテも高い評価を得た。

リサイタル活動においても求心力あるプログラムで自ら作詞し、野平一郎氏に作曲を委嘱した「夜～La Nuit～」を演奏するなど意欲的な取り組みを行っている。メディアにも数多く登場し、「NHKニューイヤーオペラコンサート」にも2005年より10年連続出演。「オフィス設計」のCMにも起用された。2008年より読売交響楽団の年末『第九』コンサートにアルト・ソロとして連続出演中。

2006年のファースト・アルバム「赤と黒」(Victor)に続き、2008年武満徹の「SONGS」全曲(+MI・YO・TA)を収めたCD「地球はマルイゼ～武満徹:SONGS～」(レコード芸術10月号(2008)新譜月評にて特選盤)をリリース。CDリリース記念リサイタル「林美智子 SINGS武満徹SONGS」も反響を呼んだ。

2010年10月、二期会ゴールデンコンサートでは、R. シュトラウスの歌曲を披露するなど、活躍を続けている。2012年2月22日には、パリの世紀末～20世紀初期までのエスプリに満ちた「ベル・エポック期」の歌曲を集めた〈ベル・エクサントリック～林美智子ベル・エポック歌曲集～ Belle Excentrique〉をリリース。サティ、プーランク、ラヴェル、そして同時期のフランスを中心に活動した作曲家達のユニークで独自の世界が評判を呼んでいる。(品番:DDCB-13021)